

2018年 韓国 留学報告書

北海道教育大学函館校 地域政策3年

6206 安孫子 芽依

私は2018年2月21日から8月25日にかけての6か月間、韓国で留学していました。留学した大学はソウル市内の漢城大学という私立の大学で、昨年8月に漢城大学主催のサマースクールという夏季のプログラムにも参加しましたが、留学生に関するプログラムや制度が充実している学校です。半年という留学をするに至った動機は、主に2つあります。1つは、大学生活の中で韓国留学をすることが一番の目標であり、韓国語の実践的な実力を伸ばすためでした。実際にその言語を使っている地域で生活し、習得した実力というものは、日本での独学では得られないものだと感じています。2つ目は、自分の好きな国で、好きなものに触れて改めて感じることや、出会った人々、新たに発見した文化から得られた感情を、進路や夢に生かしてみたいと思ったからです。

韓国での留学生活では、午前中(9:00~12:50)に語学堂で韓国語を勉強します。基本的に語学堂は春学期・夏学期・秋学期・冬学期の4学期からなっており、私が留学した半年は春学期と夏学期の2学期でした。この時期は学部の授業を取ることが推奨されていないため、午後からは自由な時間となっていたので、個々人さまざまに過ごしていたように思いますが、私の場合では日本の学校でも所属しているオーケストラサークルが漢城大学にもあるということで、そこに入り活動に参加していました。



○休日やその他の過ごし方

基本的に寮は日本人が利用する寮になっていて、一部屋4~5人の日本人と一緒に過ごしました。これによって日々安心して過ごすことができたのだと感じます。友人たちと買い物やご飯を食べに外に出たり、釜山や仁川、大邱へ小旅行に出かけたりと充実した毎日を送ったのが思い出となりました。また、学生連合オーケストラにも参加し、仲間たちと毎週日曜日に顔を合わせ練習、打ち上げをし、そうして積み重ねた4か月で作上げた公演は忘れられないものとなりました。



○アンバサダー制度

春学期と秋学期には「アンバサダー制度」というものがある。申請した留学生一人に対して韓国人の学部学生が一人付き、勉強を見てもらったり会話相手になってもらったりできる。相手はランダムで担任の先生に選んでもらうものですが、運が良ければ本当に心から信頼のおける韓国人友達ができます。私もアンバサダー制度を通じて知り合うことになった子は、いまでもずっと連絡を取り合う仲となりました。



○文化授業

一学期につき2回の文化授業があり、一回目はクラス単位・級単位で活動しモノづくりなどの体験型の形式になっており、二回目は留学生全体で移動してどこか少し離れたところに行く授業になります。とくに春学期の文化授業で「エバーランド」というテーマパークに行ったのが印象的で楽しかったです。



○最後に

「留学とかしてみたいけど不安だからできない」という声をととてもたくさん聞きます。でもいざ行ってしまえば不安を消し去るほどのとても楽しいことばかりが待っているし、たくさんの出会いの連続で、言語がすべてではないことを大いに学びました。もちろん必然的に言語力も向上するので、学生のうちに行く留学というものは人生に大きな影響を与えると強く感じました。一回の勇気で自分のなかでの大きな糧になると思うので、躊躇せずつかみ取ってほしいと思います。